

研究者総覧：鶴巻 泉子 (TSURUMAKI, Motoko)

氏名	鶴巻 泉子 (TSURUMAKI, Motoko)
職名	准教授
所属講座	国際多元文化専攻ヨーロッパ言語文化講座
学位（専攻分野）	修士（社会学）・早稲田大学・ フランス高等社会科学研究院
メールアドレス	tsurumaki@nagoya-u.jp
研究分野	ヨーロッパ地域研究（特にフランス）
	ナショナリズム研究
	エスニシティ研究
現在の研究テーマ	地域から見た国民国家と国際移動
所属学会	日本社会学会
	日仏社会学会
主要著書・論文	« Autonomie journalistique et résistance aux cadrages imposés », in C. Lemieux (ed), <i>La subjectivité journalistique. Onze leçons sur le rôle de l'individualité dans la production de l'information</i> , Ed.de l'EHESS, Paris, 2010.
	「マイノリティの連帯をめぐって—ブルターニュの新しい地域主義と移民」『グローバル化の中の「国家なきマイノリティ」』科学研究費基盤研究 (C) 5-24 2008.
	「越境労働と国民国家——アルザス地域のフロンタリエから見たEU統合問題」 宮島喬、若松邦弘、小森宏美編『地域のヨーロッパ—多層化、再編、再生』 人文書院 2007.
	「メディアと『都市暴力』——ストラスブールの車放火事件から見た都市暴動という『公共問題』の構成」『現代思想』2月臨時増刊号 118-127 2006.
	「共同体の論理をめぐって」綾部恒雄監修、原聖・庄司博史編『講座世界の先住民族——ファースト・ピープルズの現在 6 ヨーロッパ』明石書店 2005.
自己紹介文	社会学の立場から、特にフランスを中心に、「歴史的地域」と呼ばれる諸地域の研究をしています。ブルターニュ、アルザスなどをはじめとする、近代国民国家統合プロセスの周辺に位置してきた地域が、グローバル化やEU統合が進展する中でどのように国民国家との関係を変容させていくのかに興味があります。特に現在は、近年「社会問題化」している移民統合をこれらの「歴史的地域」がどの

ようにローカルな争点としているかに注目しています。参与観察法を主とした質的調査による実証研究を基本としています。

仕事と趣味をかねて私はよく映画を観るのですが、ここ数年、移民・難民を扱った作品が製作国・監督を問わず急激に増えています。日本で近年公開されたものだけでも「闇の列車、光の旅」「フローレン・リバー」「クロッシング」「パリ 20 区、僕たちのクラス」などが想起されますが、中でもお勧めは「君を想って海を行く」という作品です。フランスの北部カレという町で、ドーバー海峡を泳いで渡ってでもイギリスに辿り着こうとする難民を描いたものですが、監督・スタッフはカレで何十人もの証言を集め、実話を組み合わせ「フィクション」に仕上げました。貸しビデオ店などにありますので、移民・難民問題にご関心がおありでしたら是非ご覧ください。



ブルターニュ、プレストのポンタネゼン地区

受験生へのメッセージ

私がこれまで主・副指導教員として関わった学生さん達の専門領域は様々でした。ほぼ全ての方が、社会学や文化・社会人類学を主とした問題関心をお持ちだったとはいえ、フィールドはフランスが半



アルザス、ストラスブールのニューオフ地区。

数、その他の国・地域が半数、そして内容も国際移動、地域主義、ナショナリズム、少数文化と言語問題、極右政党、西欧におけるイスラム、家族、ジェンダー、教育システム、と様々な領域に及びました。

受験を考えていらっしゃる方は、あらかじめ研究対象に関する論文・著作のリストを作り、「学術的」研究と思われるものを選択した上で、それらの論文がどのような問題意識に基づいて書かれたもの

か、どのような先行研究が挙げられているか、何が分析の「対象」として具体的に選ばれているか、どのような「分析方法」が取られているか、その結果どのような結論が導かれているのか、などに注意をして読み進められるとよいかもしれません。論文や書籍を私たちは「流し読み」してしまいがちなのですが、各著作の「構成」に目を向けながらじっくり読むことは、研究の基礎力を養う上でとても役に立つのではないかと思います。